

証券コード：7628

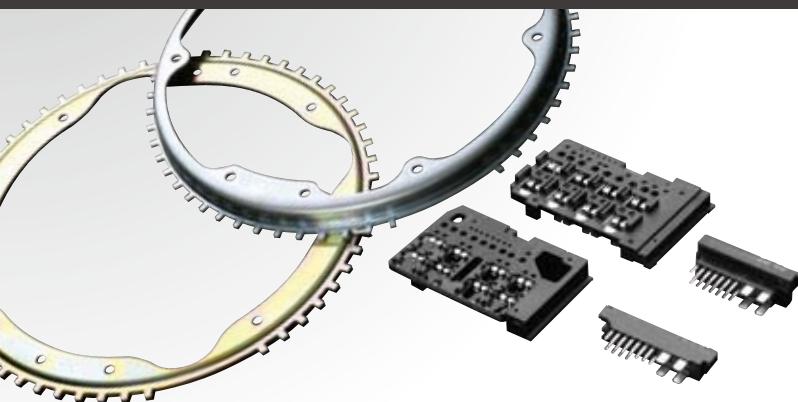


# Solution Provider

株主の皆様へ

第57期 中間報告書

2008年4月1日～  
2008年9月30日



 **OHASHI**  
OHASHI TECHNICA, INC.

## ごあいさつ



### Contents

|                 |    |
|-----------------|----|
| ごあいさつ .....     | 1  |
| 連結財務ハイライト ..... | 2  |
| トップインタビュー ..... | 3  |
| 海外子会社の業績 .....  | 4  |
| グローバル事業戦略 ..... | 5  |
| 連結財務諸表の要旨 ..... | 7  |
| 株式の状況 .....     | 9  |
| 会社概要 .....      | 10 |

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当社の事業経営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期のわが国経済は、世界的な金融不安を背景に、企業収益の落ち込みや個人消費が伸び悩むなど、一段と景気は減速傾向を強めました。また、当社グループの主力市場であります自動車業界は、国内外で生産、販売計画を縮小しており、事業環境は厳しさを増しております。

しかしながら、俯瞰して事業環境を見た場合、当社の精密加工部品への積極的な引き合いも継続しており、ピンチの中であるからこそ、チャンスも増えてきているのではないかと考えております。

上半期の連結業績は前期を下回る結果となり、通期につきましても、さらに厳しい経営環境が予想されております。

当社は、現在、総力を挙げてグローバルな業績拡大と経営基盤の強化に努めています。中国内陸部の中心都市、武漢市への支店設立やインドへの子会社設立に向けた活動を本格的に開始するなど、中長期的な視野に立った将来への布石を打つことで、成長に向けた展開を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2008年12月

代表取締役社長 前川 富義

# 連結財務ハイライト

## ■ 連結売上高

(単位：百万円)



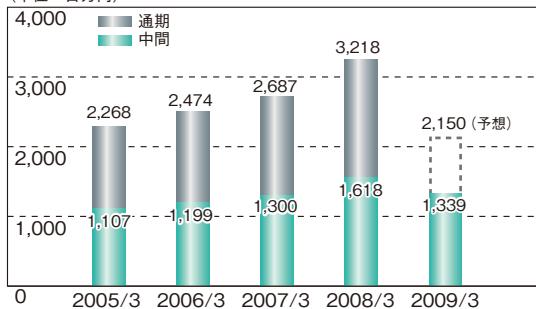
## ■ 連結営業利益

(単位：百万円)



## ■ 連結経常利益

(単位：百万円)



## ■ 連結中間(当期)純利益・1株当たり中間純利益

(単位：百万円)

(単位：円)



※2006年3月期末に1：2の株式分割を実施しました。

## ■ 純資産・1株当たり純資産

(単位：百万円)

(単位：円)



※2006年3月期末に1：2の株式分割を実施しました。

## トピックインタビュー

## 前川社長に聞く



## Top Interview

## Q1 上半期の収益状況をお聞かせください。

上半期の業績は、ほぼ期初の予想に近い状況で推移しました。しかし実感としては、夏以降かなり悪くなってきている印象です。実際のところ、自動車部品事業は、7月までは期初の予想を上回るペースで進んでいました。8月以降急激に事業環境が悪化し、9月からは一部の自動車メーカーが国内生産、販売計画を見直し、生産調整を実施しているため、その影響が表れ始めています。

## Q2 足下の事業環境および通期見通しについてお聞かせください。

自動車部品事業は、地域によって大幅に事業環境が異なります。厳しいのは、国内および北米で、景気の悪化、消費の低迷による販売台数の減少の影響を受けて収益が大幅に悪化しており、通期でも減収減益の見込みです。一方で、アジアは経済の悪化の影響はあるものの、タイ、中国は、成長率は鈍化しますが、今のところ通期でもほぼ増収増益を達成できる見込みです。英国については、ポンドが期初から3割近く下落しており、為替による収益の目減りの影響を

大きく受ける見込みです。

情報通信事業は、大手得意先の新機種立ち上げの端境期に入っており、前期がかなり良かった反動で、大幅に売上高、営業利益とも減少する見込みです。

## Q3 成長に向けた投資についてお聞かせください。

当社は、「開発提案型企業として世界のお客さまに信頼される会社を実現する」という経営理念を掲げており、その実現に向けて、中長期的な視野に立った将来への布石を打っています。対応力強化のため、国内・海外ともに前期に引続き生産設備の増設を実施しました。またこの11月には、中国の武漢市に支店を開設しました。中国では、沿岸部での工業化が進んでいますが、内陸部での需要はまだ始まったばかりです。当社のお客さまは、今のところ日系メーカー中心ですが、新たな需要を確実に取り込んで事業を成長させていきたいと思っています。インドについても、後程のページで、現在の状況を紹介させていただきますが、インフラ整備も進みつつあり、非常に有望です。当社にとって将来重要な市場となることから、積極的な姿勢で臨みたいと考えています。

## 海外子会社の業績

### 米国

売上高は、日系自動車メーカー及び関連取引先向けが堅調であったことから41,888千米ドルと前年同期に比べて6.3%増加しました。営業利益は、円高によるコスト増の影響を受けて、2,232千米ドルと前年同期に比べて20.0%の減少となりました。

### タイ

売上高は555,048千パーツと前年同期に比べて12.9%増加しました。これは、日系自動車メーカーの生産増と新規受注の獲得が順調に推移したためです。営業利益につきましても、同様の理由から89,479千パーツと前年同期に比べて34.4%の増加となりました。

### 英国

売上高は、日系自動車メーカーの生産増と新規受注の獲得が順調に推移した結果、5,130千ポンドと前年同期に比べて12.7%増加しました。営業利益は、円高によるコスト増の影響を受けて、667千ポンドと前年同期に比べて20.4%の減少となりました。

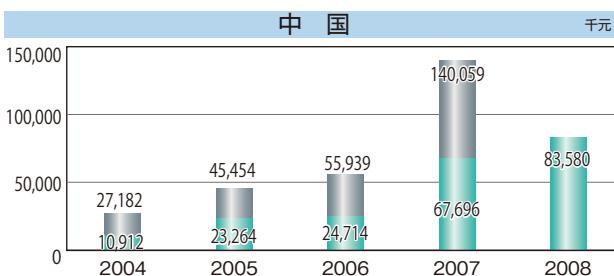
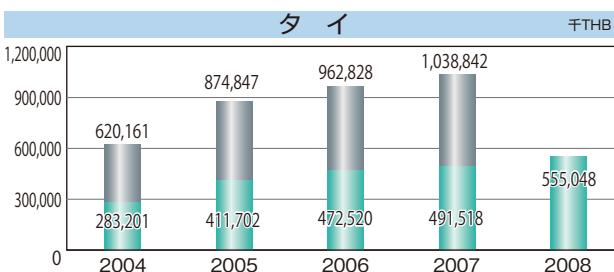
### 中国

自動車部品の販売会社である大橋精密件(上海)は、日系自動車メーカー及び関係会社向けの新規受注増により、売上が増加しました。自動車部品の製造・販売会社である大橋精密件製造(広州)は、生産増により売上が増加しました。

携帯電話用ヒンジの生産・販売会社である大橋精密電子(上海)は、販売アイテムの増加により売上が増加しました。

以上の結果、売上高合計は、83,580千元と前年同期に比べて23.5%の増加となりました。

### ■売上高推移



# オーハシテクニカグループのグローバル事業戦略

## 内陸部での拡販に向けて、武漢市に支店を設立

当社の中国自動車部品事業は、2003年9月に自動車部品の販売会社である大橋精密件(上海)有限公司、2004年11月に製造会社である大橋精密件製造(広州)有限公司の設立と、沿海地区を中心に展開してまいりました。

さらなる成長の実現に向けて、中国における新しい市場を開拓することが大変重要な戦略課題となっています。今後、世界の自動車メーカー各社の中国国内での事業展開が広がりを見せていく中で、内陸部の工業都市である武漢地域での生産拡大を見込み、販売拠点となる武漢支店を2008年11月に設立いたしました。

### 武漢支店の概要

- (1) 支店名 大橋精密件(上海)有限公司 武漢分公司  
OHASHI TECHNICA PRECISION PARTS (SHANGHAI)  
CO.,LTD. WUHAN BRANCH
- (2) 代表者 豊田 孝二(大橋精密件(上海)有限公司 総経理兼専務)
- (3) 所在地 中華人民共和国 湖北省武漢市漢陽区
- (4) 設立年月日 2008年11月1日
- (5) 事業内容 自動車関連部品の販売

### 中部六省は実需を伴った成長市場であり、湖北省はその中心

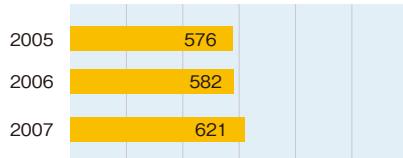
中国政府による「中部興起」戦略を背景に、4億近くの人口と、工業、交通、環境などの巨大な潜在力を持つ中部六省は、新しい巨大な市場として成長を遂げつつあります。

その中でも湖北省は古い歴史を持つ一方で、経済成長著しい大きな地域であり、工業、科学技術、教育、交通などの面で強い基盤を持っています。また地理的にも、華中地区に位置し、中国の東西地区に繋がる「中部興起」の戦略拠点とされ、沿海地区産業移転の重要使命を負っています。また、湖北省は中部地区の他の5省全てに容易にアクセスできる戦略的な地域に位置しています。

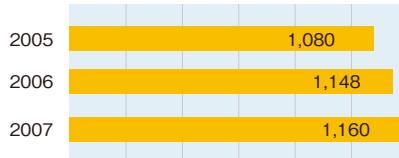
世界経済の減速は、中国経済にも影を落とし、厳しい環境でのスタートにはなりますが、急速に先進的な製造業の集積が進み、古い工業基地の改造、資源型都市の実現、交通インフラの改善といった実需を伴った成長が期待できる市場として、積極的な拡販に取り組んでまいります。

### 主要国の四輪車の生産台数推移 単位：万台

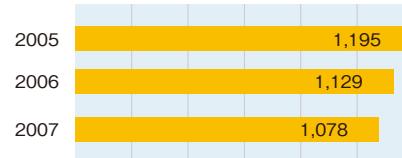
#### ■ドイツ



#### ■日本



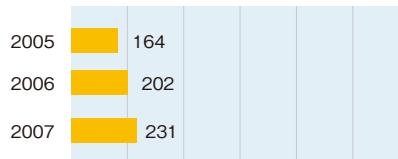
#### ■アメリカ



#### ■中国



#### ■インド



## インド子会社の設立に向けた活動を本格的に開始

当社は、インドへの自動車部品の販売子会社設立に向けた活動を本格的に開始しました。現在、具体的な事業計画の策定ならびに当初の事業規模などを精査中です。

インドは、世界最大の自動車生産国の1つで、2007年度の自動車生産台数は二輪車、三輪車、四輪車を合わせて1,100万台、また、自動車産業は世界で最も急成長を遂げている産業の1つで、2002年から2007年までの5年間の平均成長率は15.8%を記録しています。この間の自動車生産台数は、530万台から1,100万台に増加しています。国内販売台数も、年平均成長率14.1%で520万台から1,010万台へと増加しています。

### 二輪車が市場の76%を占めているものの、四輪車も2ケタ成長

インドの自動車産業は、乗用車、商用車、二輪車、三輪車の4つのセグメントに分類でき、2007年度のセグメント別シェアは、二輪車セグメントが76%、乗用車は14%、商用車5%、三輪車5%となっています。

インドに進出しているおもな自動車メーカーは、トヨタ、スズキ、ヒュンダイ、フォード、ボルボ、ダイムラー・クライスラー、GMなどであり、四輪車のトップはスズキ、二輪車のトップは、ホンダ系のヒーロー・ホンダ社で、世界最大の二輪製造業者となっています。

インドにおいては、四輪車の本格的な普及は始まったばかりであり、日系自動車メーカーの生産増大を機に、今後も高い成長が見込まれています。

当社グループは、これまでアジア地域ではタイ、中国を拠点に事業活動を展開していましたが、今後のグローバルな事業拡大を企図して、インドへの子会社設立に向けた活動を本格的に開始したものです。



# 連結財務諸表の要旨

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

|          | 2008年3月期<br>2008年3月31日現在 | 2009年3月期第2四半期<br>2008年9月30日現在 |
|----------|--------------------------|-------------------------------|
| (資産の部)   |                          |                               |
| 流動資産     | 21,746                   | 20,985                        |
| 固定資産     | 9,610                    | 9,333                         |
| 資産合計     | 31,356                   | 30,318                        |
| (負債の部)   |                          |                               |
| 流動負債     | 12,481                   | 12,314                        |
| 固定負債     | 1,005                    | 697                           |
| 負債合計     | 13,487                   | 13,011                        |
| (純資産の部)  |                          |                               |
| 株主資本合計   | 16,809                   | 16,983                        |
| 評価・換算差額等 | 873                      | 155                           |
| 少数株主持分   | 187                      | 167                           |
| 純資産合計    | 17,869                   | 17,306                        |
| 負債純資産合計  | 31,356                   | 30,318                        |

### 1 流動資産

海外子会社における現預金及び売掛金が為替換算による影響を受けたことにより、前期末比761百万円の減少となりました。

### 2 固定資産

オーハシ技研工業(株)では機械設備を増設し、またOHASHI TECHNICA U.S.A. INC.では工場・倉庫の拡張工事を行うなど積極的な設備投資を行いました。為替換算による影響を受けたことにより、前期末比277百万円の減少となりました。

### 3 負債の部

役員退職慰労引当金、未払法人税等及び支払手形及び買掛金の減少に伴い、前期末比476百万円の減少となりました。

### 4 純資産の部

営業活動により剰余金は前期末比473百万円の増加となりましたが、自社株買いを行ったことや為替換算の影響を受けたことにより、前期末比563百万円の減少となりました。

## 連結損益計算書

(単位: 百万円)

|              | 2008年3月期中間期<br>自2007年4月1日<br>至2007年9月30日 | 2009年3月期第2四半期累計<br>自2008年4月1日<br>至2008年9月30日 |
|--------------|--|--|
| 売上高          | 21,078                                   | 20,860                                       |
| 売上原価         | 16,298                                   | 16,135                                       |
| 売上総利益        | 4,779                                    | 4,724  |
| 販売費及び一般管理費   | 3,298                                    | 3,357  |
| 営業利益         | 1,481                                    | 1,367  |
| 営業外収益        | 159                                      | 101  |
| 営業外費用        | 23                                       | 128  |
| 経常利益         | 1,618                                    | 1,339  |
| 特別利益         | 24                                       | 6  |
| 特別損失         | 35                                       | 70   |
| 税金等調整前当期純利益  | 1,608                                    | 1,274  |
| 法人税、住民税及び事業税 | 643                                      | 498  |
| 法人税等調整額      | 0  | 95   |
| 少数株主利益又は損失   | 9  | 10   |
| 当期純利益        | 957                                      | 670  |

## 5 売上高

国内単体の売上高は増加、海外子会社の売上高も現地通貨ベースでは増加しましたが、為替換算による影響を受けて目減りしたため、全体では前年同期に比べ1.0%の減少となりました。

## 6 営業利益・経常利益・当期純利益

利益については、円高によるコスト増および営業外での為替差損や有価証券評価損が発生したことにより、営業利益は前年同期比7.7%減、経常利益は前年同期比17.2%減、純利益は前年同期比30.0%減とそれぞれ減益となりました。

## 7 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は851百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が1,274百万円、減価償却費が511百万円、売上債権が49百万円減少となりましたが、たな卸資産が77百万円増加、仕入債務が119百万円減少及び法人税等の支払が703百万円あったことなどによるものです。

## 8 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は524百万円となりました。これは主に、固定資産の取得442百万円、投資有価証券の取得102百万円によるものです。

## 9 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は523百万円となりました。これは主に、自己株式取得による支出が299百万円、配当金の支払が188百万円あったことなどによるものです。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

|                  | 2008年3月期中間期<br>自2007年4月1日<br>至2007年9月30日 | 2009年3月期第2四半期累計<br>自2008年4月1日<br>至2008年9月30日 |
|------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,944                                    | 851  |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,598                                   | △524   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △217                                     | △523   |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 48                                       | △113   |
| 現金及び現金同等物の増減額    | 177                                      | △309   |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 6,641                                    | 7,675  |
| 現金及び現金同等物の期末残高   | 6,818                                    | 7,365  |

## 株式の状況 (2008年9月30日現在)

|                |             |
|----------------|-------------|
| ■ 会社が発行する株式の総数 | 64,000,000株 |
| ■ 発行済株式総数      | 18,890,040株 |
| ■ 資本金          | 18億2,567万円  |
| ■ 株主数          | 5,553名      |
| ■ 大株主          |             |

|                        | 持株数        | 持株比率 |
|------------------------|------------|------|
| ゴールドマン・サックス・インターナショナル  | 1,582,899株 | 8.4% |
| イチゴアセットトラスト            | 1,282,000株 | 6.8% |
| バンク オブ ニューヨーク ジー シー エム | 1,108,101株 | 5.9% |
| 株式会社みずほ銀行              | 881,000株   | 4.7% |
| 古尾谷 健                  | 761,720株   | 4.0% |
| 日本生命保険相互会社             | 760,000株   | 4.0% |
| オーハシテクニカ取引先持株会         | 627,700株   | 3.3% |
| 久保 好江                  | 509,780株   | 2.7% |
| 久保 雅嗣                  | 509,780株   | 2.7% |
| 阿部 泰三                  | 502,600株   | 2.7% |

### ■ 資本政策

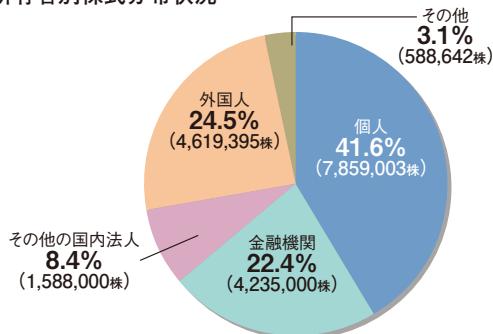
2008年4月から9月

- ・ 会社法第165条第2項の規定に基づく自己株式取得  
(買付株数377,900株、取得価額298,991千円)

2008年10月

- ・ 会社法第165条第2項の規定に基づく自己株式取得  
(買付株数2,884,200株、取得価額2,013,171千円)
- ・ 自己株式の消却 (消却株数500,000株)

### ■ 所有者別株式分布状況



## 株主の皆さまのためのIR情報

### 株主優待(おこめギフト券)の変更について

当社は、2008年9月期末より、株主優待の内容を次のように変更させていただきました。主な内容は、1~5千株保有の株主の皆さま並びに当社株式を3年以上保有していただいている株主の皆さまへの配布方法を下記の通り変更させていただきました。

現行(2008年3月末の株主の皆さま)

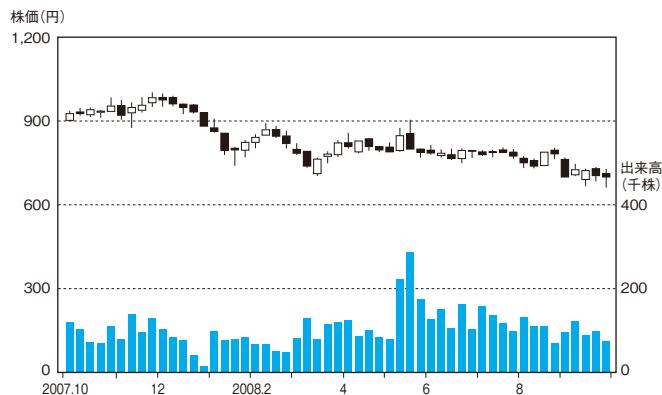
|           |         |
|-----------|---------|
| 100株以上    | 1枚(1kg) |
| 1,000株以上  | 2枚(2kg) |
| 5,000株以上  | 3枚(3kg) |
| 10,000株以上 | 5枚(5kg) |

変更後(2008年9月末の株主の皆さま)

|           |         |
|-----------|---------|
| 100株以上    | 1枚(1kg) |
| 1,000株以上  | 3枚(3kg) |
| 10,000株以上 | 5枚(5kg) |

**\* 3年以上保有の株主さまに1枚追加**

### ■ 株式チャート(2007年10月~2008年9月)



# 会社概要 (2008年11月17日現在)

|             |   |        |  |
|-------------|---|--------|--|
| 社名          | 株式会社オーハシテクニカ<br>OHASHI TECHNICA, INC.                                   |        |  |
| 本社          | 〒163-0921<br>東京都新宿区西新宿2-3-1<br>新宿モリス 21階                                |        |  |
| 創業          | 1946年(昭和21年)11月<br>1953年(昭和28年)3月 株式会社に改組                               |        |  |
| 資本金         | 18億2,567万円  |        |  |
| 社員数         | グループ合計1,022名  |        |  |
| 当社グループの事業内容 | ①自動車、情報・通信を中心とした組立産業の各種製品に使用される部品の企画・設計開発並びにその製造・販売<br>②部品の物流業務並びに輸出入業務 |        |  |
| 役員          | 代表取締役社長   | 前川 富義  |  |
|             | 取締役   | 久保田 孝忠 |  |
|             | 取締役   | 菊地 孝一  |  |
|             | 取締役   | 柴崎 雅人  |  |
|             | 取締役   | 古性 雅人  |  |
|             | 取締役   | 小林 正一郎 |  |
|             | 取締役   | 黒澤 孝之  |  |
|             | 取締役   | 田中 春次  |  |
|             | 常勤監査役   | 青山 清治  |  |
|             | 監査役   | 三好 尚   |  |
|             | 監査役   | 田口 武尚  |  |
|             | 上席執行役員  | 堀内 郁夫  |  |
|             | 執行役員  | 豊田 孝二  |  |
|             | 執行役員  | 杉岡 和之  |  |



## 国内事業ネットワーク

|         |  |
|---------|--|
| 本社      | 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モリス21階  |
| 営業部門    | 栃木営業グループ 栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16 ルーセントビル5階<br>北関東営業グループ 群馬県太田市西矢島581-6<br>日立営業グループ 茨城県ひたちなか市新光町38 ひたちなかテクノセンター-B201<br>首都圏第一営業グループ 東京都国立市谷保3999-6<br>首都圏第二営業グループ 東京都国立市谷保3999-6<br>南関東営業グループ 神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメゾンヤマキ2階<br>名古屋第一営業グループ 愛知県高浜市小池町2-15-10<br>名古屋第二営業グループ 愛知県高浜市小池町2-15-10<br>浜松営業グループ 静岡県浜松市篠ヶ瀬町502-1<br>大阪営業グループ 大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階 |
| S B 統括部 | 静岡県浜松市有玉台1-6-25  |
| 情報通信事業部 | 東京都港区虎ノ門3-7-2  |
| 調達部門    | 調達技術企画部 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モリス21階<br>東京調達グループ 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モリス21階<br>日立調達グループ 茨城県ひたちなか市新光町38 ひたちなかテクノセンター-B201<br>諏訪調達グループ 長野県諏訪市沖田町1-96-2 広瀬橋Sビル<br>名古屋調達グループ 愛知県高浜市小池町2-15-10<br>大阪調達グループ 大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階  |

## 海外事業ネットワーク

|    |  |
|----|--|
| 北米 | OHASHI TECHNICA U.S.A., INC.<br>TENNESSEE BRANCH<br>INDIANA SALES OFFICE<br>GEORGIA SALES OFFICE             |
|    | OHASHI TECHNICA U.S.A., MANUFACTURING INC.   |
| タイ | OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD.<br>OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD.<br>OHASHI S.I. (THAILAND) CO., LTD. |
| 英国 | OHASHI TECHNICA UK, LTD.<br>NORTH BRANCH   |
| 北欧 | OHASHI TECHNICA FINLAND, LTD.  |
| 中国 | 大橋精密電子(上海)有限公司<br>大橋精密件(上海)有限公司<br>広州分公司 武漢分公司<br>大橋精密件制造(広州)有限公司  |

## 国内関係会社

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| オーハシ技研工業株式会社         | 愛知県東海市南柴田町トの割266-21 |
| (株)オーティーシートライポロジー研究所 | 東京都新宿区西新宿2-3-1      |
| (株)オーティーシーロジスティクス    | 東京都国立市谷保3999-6      |

## 株式メモ

|         |  |
|---------|--|
| 事業年度    | 4月1日から翌年3月31日まで  |
| 配当金受領   | 期末配当 毎年3月31日   |
| 株主確定日   | 中間配当 毎年9月30日   |
| 定時株主総会  | 毎年6月中  |
| 基準日     | 毎年3月31日および中間配当の支払を行うときは9月30日<br>その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。                                  |
| 公告方法    | 電子公告によるものとします。   |
| 株主名簿管理人 | 東京都港区芝3丁目33番1号<br>中央三井信託銀行株式会社   |
| 同事務取扱所  | 東京都杉並区和泉2丁目8番4号<br>証券代行事務センター(〒168-0063)<br>中央三井信託銀行株式会社 証券代行部<br>電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) |
| 同取次所    | 中央三井信託銀行株式会社 日本各支店<br>日本証券代行株式会社 本支店   |

## 「株券電子化」についてのお知らせ

2009年1月を目標に「株券電子化」が実施されます。  
株券電子化により、株式の管理や取引がより効率的かつ安全になります。

- 管理面では、株券を手元で保管することによる盗難・紛失がなくなります。
  - 取引面では、偽造株券を取得することがなくなります。
  - 株券の受渡しや株券取得のつどの名義書換も不要になります。
- ※正式には、政令により実施日が決定されますが、「2009年1月」を実施目標として準備を進めています。

### 株券はご本人名義になっていますか？ 株券の裏面をご確認ください。

「株主名」の欄がご本人名義でない場合、株主の権利が失われる可能性があります。

**必ず名義書換を行ってください！**

#### ■特にご注意ください方

- 相続や贈与などで取得した方
- 手持ちの株券の会社から通知がこない方
- ご自宅や貸金庫などで管理している方

#### ■お問い合わせ先および情報は

日本証券業協会 証券決済制度改革推進センター  
(証券受渡・決済制度改革懇談会事務局)

電話 03-3667-4500

(平日9:00~17:00)

<http://www.kessaicenter.com/>



株式会社オーハシテクニカ

(証券コード:7628)

〒163-0921 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階  
TEL.03-5321-3411 (代)

R70



この報告書は、エコマーク認定の古紙配合率70%の再生紙を使用し、アロマフリータイプ大豆インキで印刷されています。